

## これまでの経過

### 1．土地取得

武蔵境駅南口にある農水省食糧倉庫跡地の取得については、昭和48年より農水省と協議を行い、平成10年に、市議会特別委員会により提出された跡地の利用方法についての報告書をもとに、「図書館、青少年チャレンジセンター等の施設に活用する」等の利用計画を立て、土地を取得しました。

平成11年には、跡地の北側半分(2,162.1㎡)を恒久的に公園として残すために、都市計画公園として都市計画決定いたしました。

### 2．新公共施設基本計画策定委員会報告書

新公共施設基本計画策定委員会より、平成15年2月に施設の基本的な考え方が報告書として提出され、施設のコンセプトを「集う、学ぶ、創る、育む、知的創造拠点」とし、具体的に「図書館機能をもつ施設」「会議・研究・発表のための施設」「創作・練習・鑑賞のための施設」「交流のための施設」という4つの施設の機能が提起されました。

### 3．武蔵境新公共施設設計プロポーザルの実施

平成16年2月には、建設の基本計画の段階から建築家に参画いただく目的で、「武蔵境新公共施設設計プロポーザル」を実施し、この施設の設計候補者として、川原田康子氏を202者の応募者の中から選考いたしました。

### 4．農水省跡地利用施設建設基本計画策定委員会報告書

本年3月、農水省跡地利用施設建設基本計画策定委員会が前策定委員会の基本的な考え方をもとに、施設の詳細、規模、管理運営等について議論を進め、それらを建設基本計画として報告書にまとめました。その中で、基本理念として、活動が行われる場所という意味で、「プレイス」という公共空間の新しいイメージを設定し、「ライブラリー」「フォーラム」「スタジオ」「市民プラザ」という4つの具体的な施設機能が提起されました。また、この施設が、図書館機能を中心に、生涯学習機能、青少年健全育成機能、市民活動支援機能をそなえ、それらが単なる複合施設としてではなく、一体的、有機的に連携して構成され、市民に活用されることによって、新しい知的な活動、新しい交流を生んでいくという点も示されました。これらの機能を活かすために、地上4階地下3階、延べ床面積約9,600㎡という施設規模が提起されました。この規模は周囲の環境に十分配慮したもので、地上部の高さは周囲のケヤキ並木等より低く抑えてあり、また4階部分を後退させるなど、周囲の樹木や北側公園、武蔵境新駅舎、駅前広場等の景観に配慮した計画になっています。

## 農水省跡地利用施設建設基本計画策定委員会報告書要点、及びその後の方向性について

武蔵野プレイス（仮称）が備える機能、行われる活動

### 図書館機能

地下1階のメインライブラリー、児童書、専門書などの2階サブライブラリーを中心に蔵書の充実を図ります。3階、4階には専門雑誌、新聞等を配置し、趣味や仕事に生かせる各種情報を提供します。音楽スタジオ、多目的スタジオのある地下2階には、音楽、演劇、美術等の専門図書を揃えます。図書は館内においては、所定のスペース以外にも、気に入ったスペースに持ち込んで読書することができます。

### 青少年健全育成機能

本施設には、図書館、スタディコーナーのほか、音楽スタジオ、多目的スタジオ、プレイスペースなどを備え、青少年が利用しやすい環境を整えています。よって、音楽スタジオ等での活動するために来館した際に、同時に図書館やスタディコーナーを利用することも可能となります。また、勉強等の合間にプレイスペースで体を動かすこともできます。地下2階に設置される情報ボードを活用して、様々なネットワークを築くこともできます。

### 市民活動支援機能

市で活動するNPO団体、生涯学習グループなどの市民団体の活動を支援するために、3階の市民オフィスには、打ち合わせスペース、印刷機器、ロッカー等を用意します。仲間との簡易な打ち合わせには打ち合わせスペースを利用し、また会議には会議室（スペース\*\*）を使うことができます。情報ボードなどを利用して情報発信を行うことができるので、各団体間の連携や新たな交流が生まれます。

### 生涯学習機能

武蔵野地域自由大学の事務局機能をはじめとする生涯学習スポーツ課、市民会館の生涯学習事業を再編し、本施設を中心に事業展開します。各事業は、今までどおり市内の各施設において実施しますが、フォーラム（大会議室）を利用した新たな事業展開も可能となります。

## 有機的な連携

今までの公共施設では、ただ単にその目的のためだけに施設を訪れ、帰っていくという図式があります。しかし、本施設においては、これらの施設機能を活用して様々な活動を展開することができます。例えば、音楽活動を目的にやってきた若者が、大人が行う活動に興味を持ち、その活動に飛び込んでいったり、図書館にやってきた市民が市民活動の情報を入手し、イベントに参加したりするなど、様々な施設機能がそろっている点から有機的な連携が図れ、新たな交流が生まれます。

## 施設の規模、配置

施設の規模や配置については、「利用上のフレキシビリティ」や「ゆとりある空間」の確保、また「北側公園との一体化」により緑に囲まれた公共空間を確保すること等の観点から、地下を積極的に利用し、建物の高さや圧迫感を極力抑えることを基本に検討いたしました。同時に、図書館機能、生涯学習機能、青少年健全育成機能、市民活動支援機能等を有機的に連携させ活用していくことも重要視しました。その結果、施設の規模は、一部地上4階、地下3階、延べ床面積約9,300㎡となっていますが、これは現在の南側建物部分の敷地に対する法定許容床面積の86%に抑えた規模になります。この規模や配置は、武蔵境新駅舎を中心とする駅前の公共空間など、周囲の環境に配慮したものとなっています。

## 管理運営について

本施設の管理運営は、施設全体を一体的に管理し、また柔軟で効率的な運営を図る点から、指定管理者による管理運営とし、開館時間の延長、開館日数の拡大など、市民のニーズに合ったサービス提供を図ります。また、地域自由大学の事務局機能を始めとする生涯学習スポーツ課や市民会館で実施している生涯学習事業を再編し、本施設を中心に事業を展開し、本施設を生涯学習の拠点としていきます。

なお、本施設が図書館を中心とする生涯学習施設であり、同時に青少年健全育成、市民活動支援機能を併せ持つ「文化・教育施設」であるという点から、指定管理者の条件として、市の文化・教育政策への深い理解、及び教育委員会との連携等があげられます。これらの点から、指定管理者には、教育委員会所管の財団法人武蔵野スポーツ振興事業団を検討しています。今後スポーツ振興事業団は、図書館や生涯学習の専門性の高い人材を確保するなど、新たに生涯学習事業も管理運営できる組織への改編を図ります。

## 総事業費、ランニングコストについて

総事業費は、基本設計段階で、建設工事費 49 億円、その他、設計料、付帯工事、IT化、書架、備品、図書購入費等で9億円、公園整備 1 億円と試算し、総計で 59 億円と想定しています。建設基本計画段階では、61 億円と想定していましたので、約 2 億円の減となっています。今後、計画を進めていく上で、さらにコスト縮減に努めていきます。

ランニングコストとしては、現行の図書館運営費や一定の施設管理費を参考に、維持管理費 1 億 8 千万円、人件費 1 億 9 千万円の年 3 億 7 千万円を想定しています。一方、本施設建設事業は、西部図書館の移転拡充、生涯学習事業の再編・移管等を行うことにより、市政全体の財政面を考えると人件費等の削減につながります。また、今後、他の図書館 2 館も指定管理者による管理運営とすることで、さらにコスト削減が図れます。

## 新たなサービス、施設の活用

現在、本市には市民活動を支援する施設、青少年の活動を支援する施設（いわゆる市民活動支援センター、青少年センター）はありません。しかし、本施設は専用ではないものの、これらの機能を備えており、新たなサービスの提供が可能となります。さらに、本施設は図書館機能や生涯学習機能を備えているので、それぞれの活動が共存することにより、新たな知的な出会いが生まれ、新たな活動を展開することが可能となります。

一方、西部図書館の本施設への移転拡充により、移転後の現西部図書館の施設は、新たな活用が可能となります。また本施設に生涯学習事業を移管することにより、市民会館についても、地域に密接した施設、例えばコミュニティセンターへの移行なども考えられます。

## 今後のスケジュール（案）

当初、17年度に基本設計を終え、実施設計を開始し、18年度には実施設計を終え、建設工事を開始する予定となっていました。しかし、今後、施設の機能、規模、基本設計等について市民の皆様からご意見を伺う機会を設けることにより、今後の進行は次のとおり予定します。

平成 17 年度	基本設計（すでに完了）市民意見聴取
平成 18 年度	実施設計等
平成 19 年度以降	建設工事

## 建築概要

名称	(仮称)新公共施設
計画敷地	武蔵野市境南町 2 丁目 3 番地
用途地域	商業地域
防火地域	防火地域
敷地面積	2,166.20 m <sup>2</sup>
道路	東 市道第 246 号線 法 42 条 1 項 1 号 幅員 : 15m 南 市道第 73 号線 法 42 条 1 項 1 号 幅員 : 16m 西 市道第 74 号線 法 42 条 1 項 1 号 幅員 : 6.36m (都市計画道路 武 3・4・27 幅員 : 16m 法 42 条 1 項 4 号 指定予定) 公園北 市道第 72 号線 法 42 条 1 項 1 号 幅員 : 5.5m
建築物用途	図書館
建 蔽 率	77 % ( 許容建蔽率 100 % ( 建基法 53 条 5 項による ))
容 積 率	430 % ( 許容容積率 500 % )
建築面積	1,660 m <sup>2</sup>
容積対象床面積	9,306 m <sup>2</sup>
延べ床面積	10,275 m <sup>2</sup>
階 数	地上 4 階 地下 3 階
軒 高	GL + 19 m
最高高さ	GL + 19.5 m
構 造	SRC 造、RC 造 一部 S 造
駐車台数	32 台 ( B3F : 31 台 1F : 1 台 )
駐輪台数	150 台
昇降設備	乗用エレベーター ( 身障者仕様 1 ) 13 人乗 60m/min 2 台 住宅用エレベーター ( 管理用 ) 13 人乗 カゴ奥行 2m 60m/min 1 台 自動車専用エレベーター 積載量 2500kg 1 台

1 ユニバーサルドアシステム、車椅子仕様、視覚障害者対応仕様  
各エレベーターは地震時、火災時 管制運転とする